

ラジオ受信機規格決定

電波は全面的に解放された。そのため戦時中使用を禁止されていた全波受信機なども許可されて放送の自由が得られ、又近く民間放送も実現の予定であり、我国電気通信界は今や戦時中の冬眠状態から脱して受信機製造業と共に活況を呈して来た。しかし、我国無線技術のレベルは現在までの電波鎖国などの原因により欧米諸国に比し相当程度遅れているとみるのが至当であり、したがって外国製品に比し遜色なき全波受信機などの無線機器を製造するには可成りの努力が必要である。

この時に当り電気機械統制会が中心となつて商工省・通信院・日本放送協会・日本ラジオ受信機製造統制組合及び各メーカーと協議を重ね、今回国民型受信機と全波受信機及び高級受信機の規格を決定した。ここにその大略を述べてみる。

先ず国民型受信機（仮称）は今後製造すべきラジオ受信機の最低標準を決定したもので十分厳選した部分品を使用しかつ入念に製作され一般大衆の使用に対して取扱いが簡単で相当の年月に亘り使用に耐えるものと規定している。受信方式は高周波一段増幅と限定され、従来の再生附受信機などは当然製造されない。使用真空管は第1表の通りでこれ以外のものは使用できない。其他の設計は各メーカーの自由でトランス附・トランスレス何れにても差支えなく、スピーカーもダイナミック・マグネチック何れでもよい。

前述の国民型受信機以外の全波受信機・高級受信機については将来の進歩向上を期して第1表の如き真空管の制限をする外は全部各メーカーの自由で創意工夫により独自の特色を發揮し技術・経済・意匠の各面に亘り外国製品に対して遜色のないものと規定している。

なお第1表以外の真空管についても研究検討中で、決定次第追加発表される予定である。

各メーカーは以上の如き規格の決定された意義を十二分に理解して、規格内で優秀品を作り出す様鋭意努力されたい。

第1表

使用真空管

国民型受信機	全波・高級受信機
12Y-V1	UZ6D6
12Y-R1	UZ6C6
12Z-P1	UT6A7
24Z-K2	UT6B7
	UT6F7
UZ6D6	UT6L7G
UZ6C6	UZ6L6A
	UZ75
UZ42	UZ42
	UY76
KX12F	UY807A
	KX80
B37	KX5Z3

PDF化にあたって

本PDFは、

『無線と実験』1946年1月号

を元に作成したものである。

PDF化にあたって、旧漢字は新漢字に、仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館 (<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。